

独立行政法人国際交流基金 契約監視委員会（令和元年度第1回）

議事要旨

1. 日時：令和元年8月2日（金） 14：00～16：00
2. 場所：独立行政法人国際交流基金9階第2セミナー室
3. 出席者：
 - (1) 委員
渡邊一弘委員長、宮本和之委員、山本裕子委員、鴨志田文彦委員
 - (2) 外務省
広報文化外交戦略課 玉利優次外務事務官
 - (3) 国際交流基金
安藤理事長、櫻井理事、清水監査室長、鈴木経理部長、平林会計課長、審議案件担当者
4. 主要議事
 - (1) 国際交流基金調達等合理化計画について
平成30年度契約状況・自己評価及び令和元年度計画策定（報告）
 - (2) 再委託案件及び一者応札・応募案件について（報告）
 - (3) 連続一者応札・応募案件2件のフォローアップ（点検）
 - (4) 個別案件（4件）（審議）
5. 主要議事概要
 - (1) 国際交流基金調達等合理化計画について
資料に基づき事務局から報告。以下のとおり補足。

ア. 平成30年度の一者応札・応募の状況をみると、平成29年度の47件から42件と減少している一方、金額が5億円から6億円へ増加している。金額の増加理由は、日本語国際センターの施設運営管理契約（約9千万円）が該当しているためである。

イ. 今後も引き続き一者応札・応募の改善に取り組んでいく。具体的には、入札予定の事前公表につき、年2回から毎月強化する。
 - (2) 再委託案件、一者応札・応募案件について（報告）

平成 31 年 4 月 1 日から令和元年 5 月 31 日までに締結した案件のうち、再委託案件（10 件）及び一者応札・応募案件（9 件）について事務局から報告。主な質疑応答は以下のとおり。

委員：一者応札・応募の要因の区分で、「①業務の特殊性から市場規模が小さく、履行可能な者が限られた」とある。現在手を挙げている業者が今後請け負わないリスクがあるが、リスク回避の対応策を検討しているか。

基金：現行業者の入札参加を促すとともに、引き続き入札参加業者の開拓に努めたい。

委員：既に契約している業者に優位性があるだろうが、だからといって随意契約というわけにもいかない。

基金：常に競争性は保つようにしたい。

（3）連続一者応札・応募案件 2 件のフォローアップ（点検）

各担当部署からフォローアップ票に基づき説明。委員からは、2 件とも基金の取組みは妥当であるとのコメントを得た。各案件の主な質疑応答は以下のとおり。

ア．平成 31 年度公用車運行管理業務委託契約

基金：前回と比べて、条件の緩和や公告期間の見直し（2 倍の期間）を行った。5 者から入札説明書を求められ、うち 4 者が入札説明会に参加したが、応札は 1 者だった。原因を分析したところ、仕様の一部である「年間を通して可能な限り同一の運転手が従事できること」という点に対して、困難という意見が 2 者からあった。また、前回の公表済みの落札価格を知ったと思われる 1 者から金銭的に困難という理由を示された。

委員：「可能な限り同一の運転手が従事できること」という仕様を緩和することは可能か。

基金：業者に可能な提案をしてもらうのも一案。年間常に同一の運転手でなければならないわけではなく「可能な限り同一」という点については説明会で強調した。近年の人手不足という問題も関係しているのではないかと思われる。

委員：電子入札を導入すると多少は応札者の増に影響があると思うか。

基金：より多くの業者の目にとまるとは思う。しかしながら、今回 7 者に声をかけた

ものの一者応札だったので、応札者が増加するかは予測できない。

イ. モスクワ日本文化センター運営にかかる業務委託契約

基金：公告期間を 1 か月間確保する等、応募の促進を図ったが、入札説明会に参加したのは 1 者であった。基金から案内するも入札説明会に参加しなかった現地業者 1 者にヒアリングしたところ、日本語及びロシア語でモスクワ日本文化センターの様々な業務を遂行しうる人材の提案という要件が特殊かつ高度なものであり、人材確保は困難であるとのことだった。

基金：本件契約について、今後も競争性の確保が難しい状況が続くことが予想されるが、引き続き適切な公告期間を確保する、現地業者の情報収集をして参加者を募る等の取り組みを行っていききたい。

委員：理想的な形としては、基金本部から人を派遣するというものか。

基金：然り。基金本部からの派遣、または現地での直接雇用のいずれかが理想的。

委員：そもそも人材確保が難しいのであれば、参加者を広く募っても効果が薄いかもしれない。

(4) 個別案件（4 件）の審議（案件一覧は別紙のとおり）

ア. 平成 30 年度経済連携協定日本語予備教育事業に係る国際航空券手配業務委託契約

委員：基金内で他に実施している航空券手配業務と比べて、本件業務には何か特徴があるか。

基金：仕様がやや複雑であると考えている。計 56 名をインドネシアとフィリピンという二か国に派遣し、翌年に帰国させるという仕様であった。

委員：競争参加者の増加に効果があったのは、競争参加資格の拡大や広報活動であるか。

基金：競争参加資格の拡大は効果的だったと思う。また、個別に実績のある事業者に声かけしたのも効果があった。

委員：基金の他の部署からも事業者の情報を得る等して、広報の範囲を広げるのも一案。

イ. 平成 31 年 6 月 11 日日本語能力試験模擬試験実施（国内）及び電算処理（国内・海外）業務委託契約

委員：事業の種類が多いとのことだが、会場運営とデータ処理といったように分割すれば、参入者が増えるのではなかろうか。

基金：本試験の 2 週間前という短期間で本件作業を行う必要があり、また、試験問題の機密保持を図るため、複数の業者と契約すると管理が難しくなる。あわせて、一括契約のほうがコストが下がるのではないかと考えている。

委員：とはいえ、本件契約では再委託を認めている。会場運営とデータ処理を分割して契約したとしても、機密は厳守させればいいのであり、単価についても安くなる可能性はあるのではなかろうか。

基金：一番の理由は、スケジュールリングが複雑になってしまうこと。一者と契約して総合的に管理するほうが良いと考えている。

委員：競争参加資格を多少緩和して競争参加者を増やすことは可能か。また、前は二者応札だったが今回は一者だった原因の分析内容はどうか。

基金：全世界で実施しているような大規模試験を請け負えるような業者はそれなりのノウハウや管理体制が必要であると思うので、競争参加資格を厳しくしている。また、前回は本試験の電算業者が参加したが落札はできなかった。

委員：一者応札が続いていくと、落札価格が高くなっていき、大きい経費負担でやらざるを得なくなってしまうか。そうすると、分割して競争に付す等の工夫が必要になってくるのではないか。

基金：模擬試験の規模が大きくなるとは想定はしていないが、国内・海外で監督員等の人件費が高騰することは考えられる。日本語教育に関する業務を取り扱っている業者数が少なく、また、試験ともなるとさらに少なくなるのでどうしても一者応札になりやすい。とはいえ、分割しての入札となると、基金側での管理が難しくなる。

委員：条件が合えば、複数年契約で実施するほうがコストは下がるかもしれない。

基金：採点単価は変わらないかもしれないが、上昇傾向の人件費は変わってくるかもしれない。

ウ. 基金国内クライアントパソコン用 OS 及び office アップグレードに伴う展開作業業務委託契約

委員：本件業務と別件のライセンス調達業務の請負業者は同じ業者か。

基金：結果的に同じ業者が落札した。方や調達で方や役務と業務内容が異なり、費用規模も異なるので、それぞれに少しでも多くの応札者があるよう、ライセンス調達と本件業務の入札は敢えて分離した。また、単なる購入契約であるライセンス調達とは異なって、本件業務はスムーズな展開作業が実施できるようにネットワーク等のチェックに関する仕様確定に時間を要したことも一体で競争に付さなかった理由の一つである。

委員：端末については取り替えなかったのか。

基金：今回は取り替えなかった。よって、ユーザーには負担はなかった。ただ、準備はかなり丁寧に行った。

委員：入札説明会は開催していないとのこと。応札業者以外から問い合わせはあったか。

基金：説明書は 10 者ほどに配布したが、応札したのは 2 者だった。

委員：一般的に、ライセンス調達先に本件業務を請け負わせたほうが、信頼性やコスト競争力の面で影響はあるかないか。

基金：あまりないと考えている。

委員：本件業務ではなく、ライセンス調達契約について一者応札となった経緯について説明願いたい。

基金：ライセンス調達契約では意見招請も実施して本年 5 月の納入を目指して進めていたが、大型連休があったため、入札から納入までの期間が短かったため、一者応札となった。本件業務では国内分 771 台分が対象となった。

エ. クリッピングサービス委託契約

委員：予定価格に対する落札率が低い理由はなにか。

基金：予定価格については、他社ではオンラインニュースのクリッピングとSNSモニタリングは別のサービスとして提供されているケースが多いために割高となったが、Meltwater社は2つのサービスをひとつのパッケージとして割安な金額で提供しており、予定価格に占める見積額の割合が低くなっている。

委員：海外も含めたオンラインニュースのクリッピングサービスを提供しているのは今のところ、2者だけか。

基金：クリッピングサービスにはいろいろあるが、海外も含めてこれほどの数のメディアを検索対象としているのはこの2者だけと承知している。

委員：独占的になってくると、今は良心的な価格設定だが、競争がなくなると契約金額が吊り上がってくるのではないか。

基金：今のところ、昨年度と同じ金額で契約している。

委員：基金の検索傾向が同社に把握、蓄積されていると思うので、廉価という面だけにとらわれないよう、その点は留意。

以上

令和元年度第1回契約監視委員会:審議案件一覧

	契約名称	契約の相手方	契約方法	契約金額	担当部署
1	平成30年度経済連携協定日本語予備教育事業に係る国際航空券手配業務委託契約	株式会社エヌオーイー	一般競争 (総合評価)	5,923,898 円	日本語第1事業部 事業第1チーム
2	平成31年6月11日日本語能力試験模擬試験実施(国内)及び電算処理(国内・海外)業務委託契約	共同印刷株式会社	入札不調	38,548,780 円 (見込)	日本語試験センター 試験制作チーム
3	基金国内クライアントパソコン用 OS 及び office アップグレードに伴う展開作業業務委託契約	日本アクセス株式会社	一般競争 (総合評価)	22,572,000 円	システム管理課
4	クリッピングサービス委託契約	Meltwater Japan 株式会社	随意契約	1,301,400 円	コミュニケーションセンター